



原子力安全文化醸成に向けた取り組み

<内容>

2023年度原子力安全文化醸成の取り組みと評価

2024年2月29日


中国電力株式会社

1. 原子力安全文化意識調査(概要)

<調査の目的>

- 原子力安全文化の醸成度合いの定着度・浸透度を定期的に把握・評価し、実効ある安全文化醸成活動の策定、実施につなげていく。
- 集計単位別に結果を分析・考察のうえ、総合所見を情報提供する。

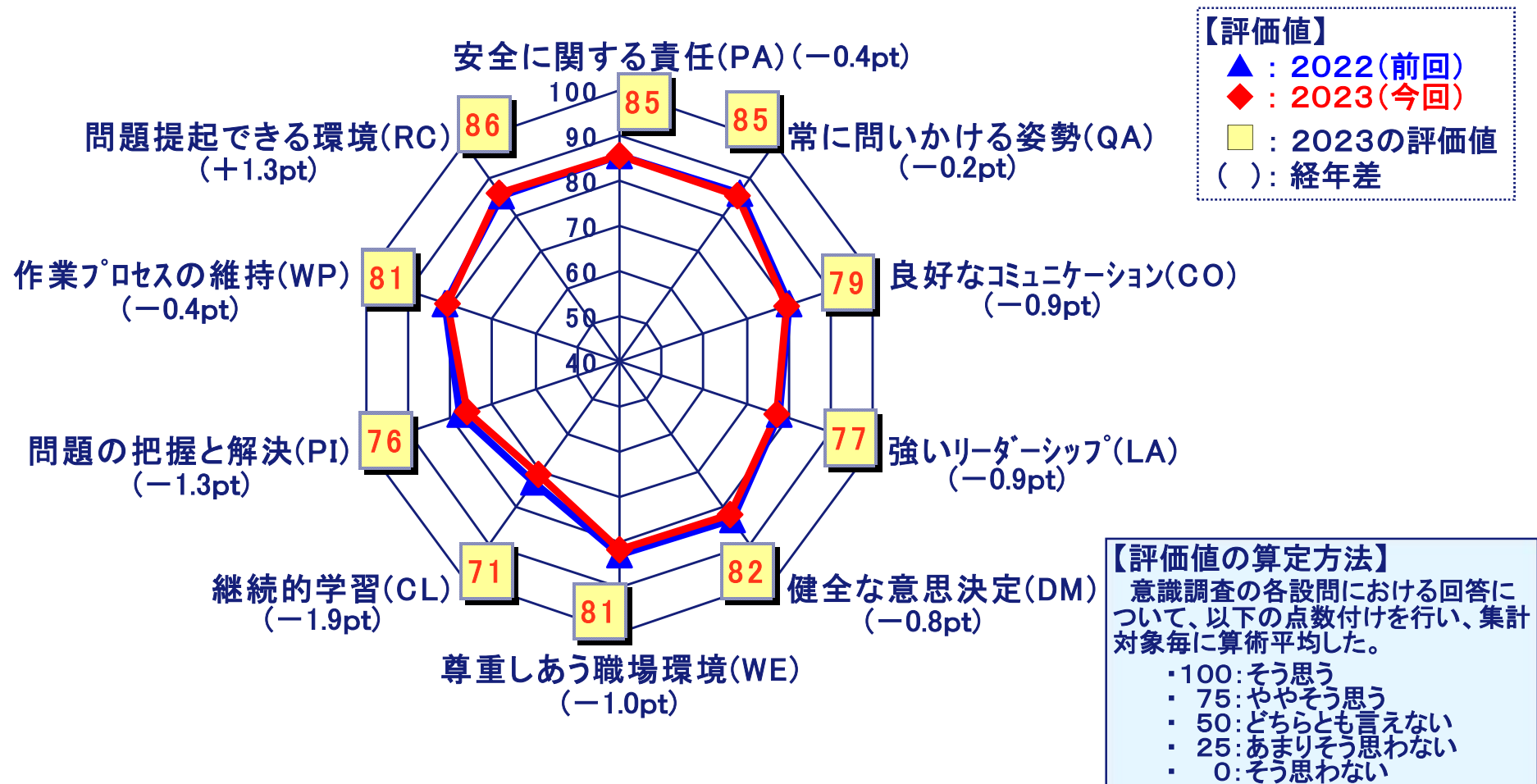
<調査方法の概要>

対象者	原子力関係組織の部所長以下全員(806人※)、回答率99.8%
調査期間	2023年11月15日～11月29日
調査方法	アンケートシステムにて回答、集計 (匿名性は確保)
属性区分	部所別、年代別、職位別
設問数	66問(2022年度より安全文化10特性(Traits)に基づく調査へ移行) 
回答方法	「安全文化の行動基準」の達成度を5段階で自己評価 (そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない)

※うち発電所:490人

2. 原子力安全文化意識調査結果

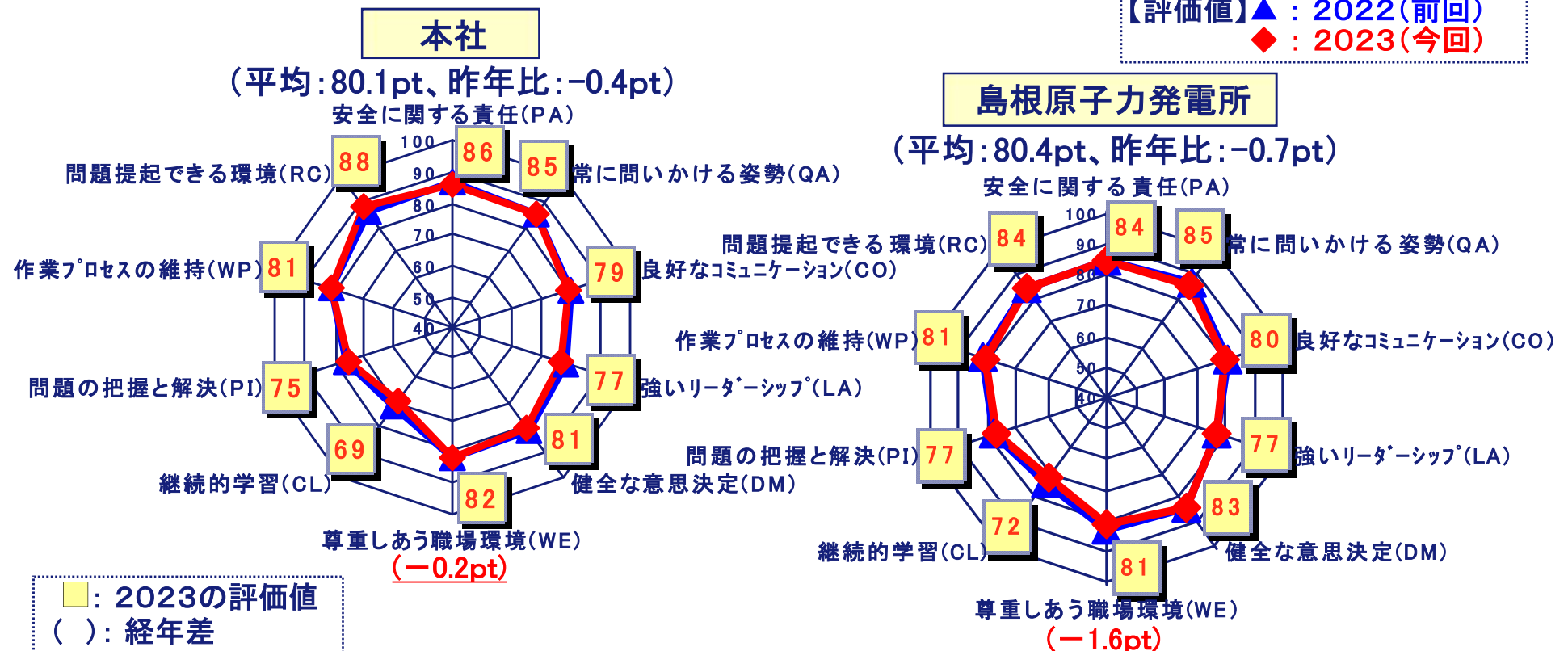
- ▶ 昨年度と比較して、全体平均の評価値が**微減(平均-0.6pt)**している。
- ▶ 特性単位では、「**継続的学習(CL)**」の評価値に低下(-1.9pt)が見られ、相対的にも低い(70.8pt)状況にある。



2. 原子力安全文化意識調査結果

- 各特性の評価値の平均や、評価値の傾向(高低差)に関して、本社と発電所で大きな差異はない。
- 2021年度低下幅が大きかった本社の「**尊重しあう職場環境(WE)**」の評価値は、昨年度は改善の傾向(+3.2pt)が見られたが、今年度は**横ばい(-0.2pt)**となっている。また、発電所の評価値は本社とほぼ同じ(80.8pt)ではあるが、**低下(-1.6pt)**が見られた。
- 昨年度に追加した「再稼働に向けて、業務繁忙や緊張感が高まったと感じるか？」の評価値について、**上昇(+5.0pt*)**が見られた。*:全設問の中で変化幅最大

【評価値】▲ : 2022(前回)
◆ : 2023(今回)



2. 原子力安全文化意識調査結果

▶ 今年度は、昨年度の総括評価を踏まえ、「**業務の抱え込み防止と問題の共有化のため、コミュニケーション向上に資する活動を、活動方針に織り込み確実に取り組む**」こととしており、次の項目に重点的に取り組んでいる。

・役員と本社社員との意見交換会

本社社員に対しても役員との意見交換会を実施する。

(第1回)2024年1月19日実施、テーマ:再稼働を迎えるにあたっての心構えや課題

対象者:本社電源土木・建築副長(計10名)[役員:北野副社長]

(第2回)2024年1月26日実施、テーマ:再稼働を迎えるにあたっての心構えや課題

対象者:本社原子力管理・安全技術副長(計11名)[役員:長谷川常務]

【意見交換会で出された意見・要望(一部抜粋)】

- ・職場の良好な人間関係、コミュニケーションを密にすることに心掛けていきたい。
- ・想定外の事象が発生すること考えられ、対応できるか不安を感じている。
- ・稼働を経験したことがない若い世代に対して、再稼働に向け鼓舞させることに苦労している。

・職場風土の改善に向けた活動の実施

コミュニケーションの活性化等、業務の抱え込みや重圧感の分散・軽減に資する施策を継続して検討・実施する。

【各部所で行っている施策(一部抜粋)】

- ・発電所長・副所長との意見交換会の実施
- ・課題の早期把握・是正と風通しのよい職場づくりのための業務進捗確認会の実施
- ・風通しのよい明るい職場作りの実践(あいさつ運動(メッセージ、玄関前等でのあいさつ))

3. 原子力安全文化意識調査結果を踏まえた評価

5

【総括評価】

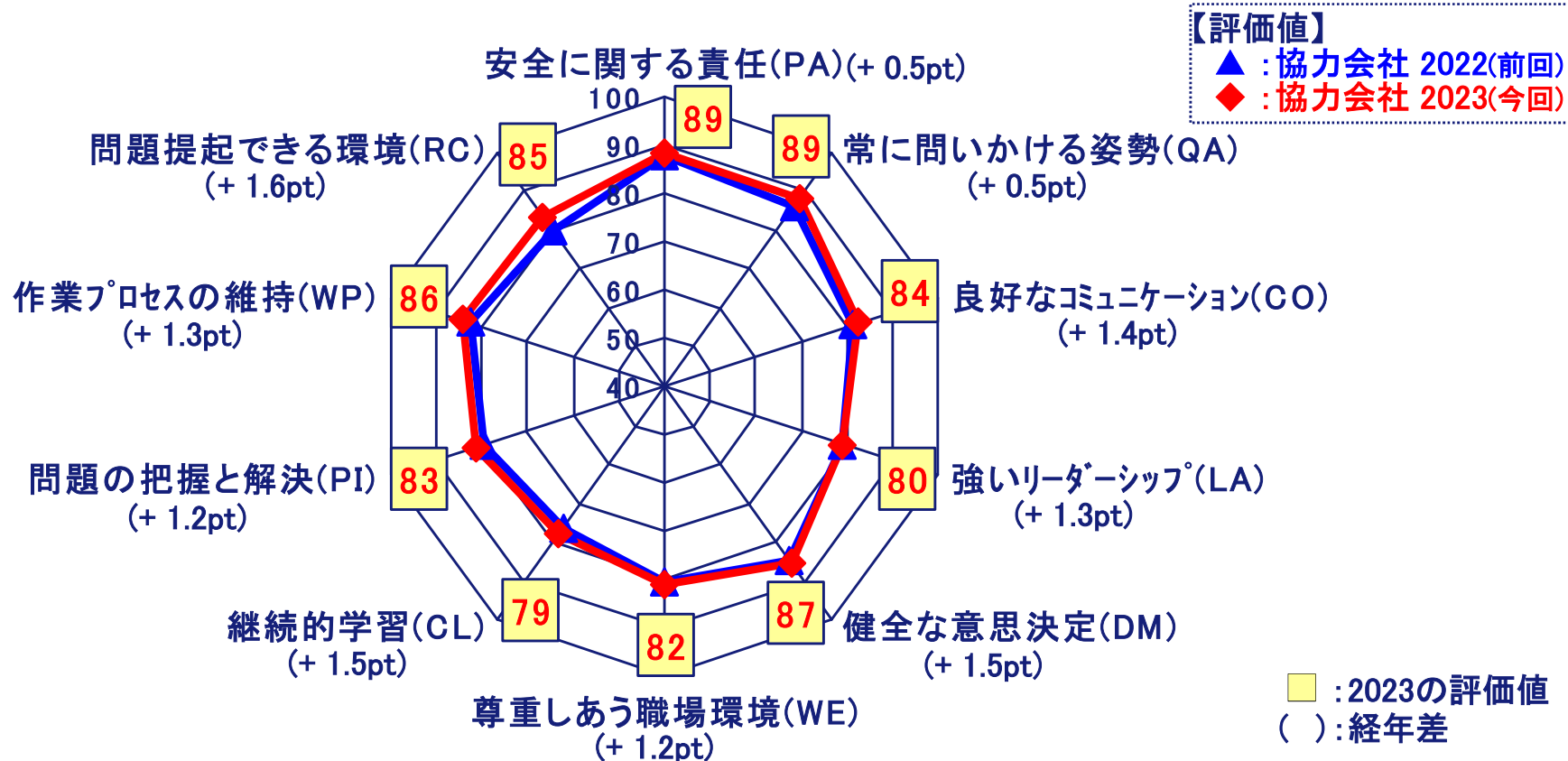
- 全般的な傾向として、評価値が微減(-0.6pt)している。
- 活動方針として、「尊重しあう職場環境(WE)」の改善に向けた施策に各部所で重点的に取り組んでいるが、関連する設問の本社評価値は横ばい(-0.2pt)で、発電所評価値には低下(-1.6pt)が見られた。
- 2号再稼働に向けた事業者検査や2号特重・3号の審査対応等により、業務が輻輳し、部所間での業務調整等に苦慮している意見を確認しており、業務繁忙に起因したコミュニケーションの不足が生じ得ることに、引き続き対応が必要である。

【対応の方向性】

- 緊張感の軽減やコミュニケーション向上の対策として、引き続き、役員と発電所員・本社社員等との意見交換会や職場風土の改善に向けた活動に取り組むことで、安全文化醸成度の全体的な底上げを図る。
- 特性単位で、評価値に低下が見られ、相対的にも低い状況にある「継続的学習(CL)」に関する取り組みを強化する。

4. 原子力安全文化意識調査結果(協力会社)

- ▶ 保安業務に従事し、島根原子力発電所に常駐している協力会社8社(683人)に対し、当社と同様の原子力安全文化10特性(Traits)に基づく意識調査を実施した。
- ▶ 協力会社8社の評価値は全ての特性で75pt以上あり、問題となるような「弱み」のある特性は確認されなかった。
- ▶ また、平均で1.2pt上昇しており、2022年度中国電力より低い傾向にあった「尊重しあう職場環境(WE)」、「問題提起できる環境(RC)」の特性についても改善の傾向にある。



5. (活動例①)安全文化講演会の開催

- 本講演会は、安全文化醸成活動の一環として、安全文化の意識の高揚を目的に毎年実施している。
- 今年度は、JANSIで安全文化の浸透・向上を目的に定期的に実施している安全キャラバンの機会を活用し、ご講演いただいた。

《2023年度 安全文化講演会概要》

- ・実施日:2023年9月20日
- ・講師:原子力安全推進協会 深野GL
- ・テーマ:「なぜ、ものが言えなくなるのか」を考える
- ・参加者:発電所員、協力会社、本社各部門
計177名

感想 (一部抜粋)

- ・心理的安全性に対する理解が深まり、組織の事故の防止に役立つ情報だった。
- ・これからの組織に求められるリーダーシップについて非常に良く理解できた。
- ・今回の講演内容を自分に当てはめたときにできていないところが多々あり、自分自身を見つめ直す良い機会となった。
- ・全ての参加者にとって自らの行動への反映を考え得る共通的なテーマであり、皆が自分事としてとらえることが出来れば、よりよい組織に向かうと考える。



5. (活動例②) 役員と発電所員・本社社員等との意見交換会

8

- 役員と発電所員・本社社員等がお互いの思いを直接伝え合うことにより、コミュニケーションの充実を図り、業務をよりよいものに行っている。

《2023年度の取り組み》

- ・日頃の業務で感じていること等について、率直な思いを伝える。
- ・役員から所員・社員等へ以下の視点で動機づけを行い、モチベーションの向上を図る。
 - 原子力事業および現在の従事業務の重要性について認識を深める
 - 原子力の厳しい環境(世間や再稼働など)への不安に対する受け止め方・考え方を伝える

【開催実績】

- ・テーマ:「フリーディスカッション」
 - 「再稼働を迎えるにあたっての心構えや課題」
- ・対象者:幅広い年代・役職(開催回毎に選定)
10名程度/回
- ・回数:5回実施(年間計画6回)
 - 8/24:中川社長と発電所所長、副所長、部長クラス
 - 11/28:岩崎所長と中電環境テクノス
 - 11/28:谷浦部長と中電プラント
 - 1/19:北野副社長と本社電源土木・建築副長クラス
 - 1/26:長谷川常務と本社原子力管理・安全技術副長クラス



5. (活動例③) 発電所ファンダメンタルズ通信の発信

- ▶ 島根原子力発電所において、リーダーの期待事項の伝達やコミュニケーションの向上を図るツールとして、ファンダメンタルズ通信を発信している。
- ▶ 2021年度より活動を継続しており、管理職の輪番制で週1回のペースで、107回(2023年12月末時点)の情報発信している。

《資料構成》

- ・ファンダメンタルズ
発電所で働く者の心得、基本行動として定めたファンダメンタルズの中から選出
- ・伝えたいこと(活用シチュエーション含む)
選出したファンダメンタルズについて、具体的な事例を挙げながら、期待事項を伝達
- ・私の「おすすめ」
休日の過ごし方等、身近な内容を紹介することで、良好なコミュニケーションを図るツールとして活用している。

ファンダメンタルズ通信 Vol.113

発信者：保修部 ○○副長(2024/2/14 発信)

目 標：MA.1 保修の基本
ファンダメンタルズ(冊子：P74)

3. 保修のパフォーマンス

3-2 保修に関する知識、技能、経験を適用し、また、正しい資機材、交換部品等を用いることで、確かな仕様に従い設備が再組立てされることを確実にする。

伝えたいこと(私の心掛けている(たい)こと、業務内容、業務経験、etc.)

タービン担当では、タービン・復水器等のタービン設備全般の保全を行っています。

これらの設備を立ち上げるためには真空上昇試験・保安装置試験・タービン振動調整等の試運転を要しますが、プラント停止期間の長期化に伴い担当者の現場経験が不足していたため、2022年11月に起動試験中の火力発電所での現場教育を実施し、今後は、シミュレータを活用したタービン起動教育についても予定しています。

また、プラントメーカーのシニア有識者の方々のノウハウをお借りして、タービン起動に関する留意事項の整理および想定される事象に対する処置方針(振動調整の要否判断等)の検討を、現在実施しているところです。

長期停止後のタービン起動になるため緊張感が高まりますが、これも貴重な経験になると信じて、前向きな気持ちを切らさず取り組んでいきたいと思っています。

私の住む街

私の住む米子市には、国史跡・米子城跡(標高約90m)があります。近年「絶景の城」として全国放送のテレビ番組で紹介され、その番組により2月20日頃(午前7時15分頃)と10月20日頃(午前6時45分頃)に、大山の山頂から朝日が昇る景色(ダイヤモンド大山)が見られることを知りました。

それまで城跡に登る機会は少なかったですが、今ではこのタイミングにあわせて城跡に登り、ダイヤモンド大山を見て気分転換を図っています。



(2023年10月22日米子城跡より)